議題１：環境教育の推進について（岡崎市提出）

資料１

市名	回答		
	環境教育の実施について		
	（１）環境教育を実施しているか	↓「実施している」の場合、（２）～（３）に回答ください	
		（２）概要（直営又は委託等）	（３）問題点等
名 古 屋 市	実施している	○名古屋市環境学習センターの運営 　主に小中学生を対象に、身近な環境から地球環境まで幅広く環境問題について考え、取り組むための環境学習の拠点施設（一部運営を委託） ○なごや環境大学の推進 　市民・企業・大学・行政等の協働により、「持続可能な地球社会」を支える人づくり・人の輪づくりをねざし、「まちじゅうをキャンパス」とした講座の実施等、環境学習・環境活動を展開 ○藤前干潟の保全活用の推進 　多様な生きものを育み、渡り鳥の貴重な中継地としてラムサール条約にも登録されている藤前干潟を後世に引き継ぐとともに、環境学習の場として活用を推進 ○環境サポーターの派遣 　幼稚園・保育園や学校における環境学習を支援するため、市民ボランティアである「環境サポーター」を派遣し、寸劇、紙芝居、自然観察、ワークショップなどの環境学習プログラムを実施	○名古屋市環境学習センターの運営 　土日祝日の一般来館者が少ない。 ○なごや環境大学の推進 　活動参加者数が伸びていない。 ○環境サポーターの派遣 　利用件数が伸び悩んでいる。
豊　橋　市	実施している	H30年度実績　合計159回、従事者数314名（アルバイト含む） ・職員が講師となって行う一般及び小学校向け出前講座（H30実績101回） ・外部講師を招いて行う「ごみ減量・リサイクル講習会」（H30実績1回、講師謝礼10,000×2名） ・530運動環境協議会との共同による保育園・幼稚園向け環境教育（H30実績57園、職員1名と530運動環境協議会の雇用によるアルバイト1名の2名体制）	出前講座が集中する時期があり、職員の負担となる場合がある。
岡　崎　市	実施している	直営	平成29年度は９３の保育園・幼稚園に、３８の小中学校に、直接市の職員が出向き、環境学習を行った。今後も環境教育の質、量を充実、維持させるには、実施の方法の見直しを検討している。
一　宮　市	実施している	昨年度は、直営で外部講師に講義を依頼する講座（愛知県の環境学習コーディネート事業を活用した事例あり）、職員が講師となり講義を行う講座、環境関連施設へのバスツアー、保育園・幼稚園にて環境学習講座を実施した際の報償費の補助などを行いました。また委託実施したものについては、環境学習施設にて指定管理者による環境講座やビオトープの観察会等を開催いたしました。	参加者が集まらない。また参加者も過去に参加いただいた方が多く、新たな参加者を呼び込めていない。当日の講座は講師にお願いするが、受講者募集、会場設営、後片付け等を市職員で行うこととなり、市職員の負担が大きい等の問題点が挙げられます。

市名	回答		
	環境教育の実施について		
	（１）環境教育を実施しているか	↓「実施している」の場合、（２）～（３）に回答ください	
		（２）概要（直営又は委託等）	（３）問題点等
瀬　戸　市	実施している	・内容 「せと環境塾」では、市の豊かな自然やごみ・資源の循環など、環境に関する様々なことを学べる講座を開催しています。市民が参加することにより、瀬戸市の魅力を知り、これからの瀬戸市について考える機会を提供できる場となっています。 講座の内容としては、自然散策、生物捕獲や工作などのフィールドワーク、各種講義（生物多様性、エネルギー、廃棄物関係）が挙げられます。 ・実施主体 市主催講座：瀬戸市 認定講座：市内環境教育関係機関、市民等で構成する環境関連団体など ・開催回数と職員の従事人数 開催回数：市主催講座昨年度実績　２０講座（企画した２３講座中３講座は中止） 従事人数：環境課環境保全係５名（主担当１名、補助４名） ・予算額　（平成３０年度　報償費予算　１９８千円） 講師料：講師一人あたり１０，０００円（一回の講座で２名まで） 補助者一人当たり図書券２，０００円分（一回の講座で２名まで）	・市主催講座の受講資格について →原則市内に在住、在学、在勤の者としているが、市外在住者や元市内在住、在勤者等からの問合せが増えている。（要綱改正を検討中） ・講師料について →内容や講座時間を問わず一律の金額としているため、ケースによって変動すべきではないかと職員間で意見が出ている。（要綱改正を検討中）
半　田　市	実施している	【直営】 「自然体験・観察会」、「出前講座」や博物館と合同企画「親子昆虫観察ツアー」などを実施しています。	貴市同様、実施方法の見直しは必要と考えており、行政はコーディネイト的な役割を担うことを理想とします。 そのためには、まず環境学習指導者の発掘や育成・養成方法の確立が課題となります。
春 日 井 市	実施している	各種講座セミナーを専門講師（報酬支払）を招き実施する他、市職員による出前授業等を直営で実施。 エコドライブ講習会を自動車学校に委託する他、市民・事業者・行政が一体となり環境まちづくりを推進する組織として「かすがい環境まちづくりパートナーシップ会議」を設立し、各種事業を委託（市が事務局）している。	・学校教育（授業）における環境教育の促進を図っているが、学校側が多忙なこともあり、実施に向けての調整に苦慮している。 ・市民団体と連携し環境教育を展開しているが、団体の高齢化が進んでおり、後継者の育成が懸念される。
豊　川　市	実施している	本市の各種環境教育プログラム（環境講座）については以下のとおりです。 平成30年度実績では、11講座メニューで全45回開催しました。 そのうち、職員が講師までつとめる（直営）ものは、2講座15回開催しています。 委託で実施した講座はありません。	本市においても、直営の講座は受付、講座内容の構成、資料作成など全て職員が行うため、業務負担が問題となっています。また、講師を専門家に依頼している講座もあり、一部は講師に任せることができますが、業務負担の軽減はあまりないと感じます。 ただ、同じような講座内容で実施している他課や他団体と協力し、業務分担をしながら実施している講座では、業務負担の軽減を感じています。
津　島　市	実施していない		

市名	回答		
	環境教育の実施について		
	（１）環境教育を実施しているか	↓「実施している」の場合、（２）～（３）に回答ください	
		（２）概要（直営又は委託等）	（３）問題点等
碧　南　市	実施している	直営 （出前講座として環境保全やごみのメニュー有り）	実施実績がほとんどないメニューに関しては、職員の経験や資料の準備が十分でないため、申込があった際にスムーズに対応できるかどうかの懸念がある。
刈　谷　市	実施している	・外部講師を招いた市民対象の各種講座の開催、希望により職員が講師となって実施する出前講座、幼稚園・保育園・小学校・中学校にて実施するグリーンカーテン作り、市民対象のグリーンカーテンコンテストなどを実施。	・講座やコンテストへの参加人数が伸び悩んでいる。
豊　田　市	実施している	（直営）市民参加生き物調査、水生生物調査（学校主体） （委託）豊田市環境学習施設エコット事業 （指定管理）豊田市自然観察の森事業 （官民連携）とよたエコライフ倶楽部事業	社会教育分野での環境学習の参加者が固定化される傾向にある。そのため、環境学習施設でスタッフが講師を務める学習だけでなく、ほかの施設で企業が講師を務める学習などを実施し、新たな参加者獲得を進める。
安　城　市	実施している	①　クリーンバス【直営】 （市内小学校４年生に対し実施する市内廃棄物処理施設の見学、学習事業。市職員が講師として説明） ②　ダンボールコンポスト講習会【直営、但し講師は民間に依頼】 （ダンボールコンポスト普及のための使用方法等実践講習） ③　町内会等へのごみ分別説明会【直営】 （分別方法等の説明を市職員が町内会へ出向いて実施）	職員の拘束時間が長く、休日出勤が必要な場合もあります。
西　尾　市	実施している	クリーンセンター施設見学（直営） 環境学習講座「にしお大学かんきょう学部」（原則委託） 出前講座（直営）	受講者を集められるコンテンツを探すのに苦慮している。 毎年同じ人が出席するなど、環境意識を持つ人の裾野が広がっていない。
蒲　郡　市	実施している	①森と海の環境講演会　年に１度、市内小学校にアウトドアタレントの鉄崎幹人氏を招き「森が育む三河湾」をテーマに講演会を行っている。講師費用のみ負担している。（１０万円、本年度は愛知県より７万円の補助を受けている） ②里山自然観察会　年に１度講師を招き、市内の里山で動物・植物の観察やアサギマダラ（渡り蝶）のマーキングなどを行っている。講師費用、消耗品費、チラシ作成費などこの観察会にかかる費用は愛知県の「あいち森と緑づくり・環境学習推進事業費」から助成金をいただいている。（令和元年度は、計７万円） ③環境関係出前講座　依頼があれば随時行っている。市民向けの講座がほとんどである。環境清掃課職員が直接講師を務めている。内容は「三河湾浄化関係」、「省エネ・地球温暖化対策関係」、「生活排水関係」など。	①森と海の環境講演会について　今年度で市内小学校を一巡してしまうので、来年度以降の予定は未定であること。代わりがいないこと。 ②里山自然観察会について　講師が高齢になってきていること。 ③環境関係出前講座について　講師を務める環境清掃課職員は専門家ではないので、専門的知識を持っていないこと。

市名	回答		
	環境教育の実施について		
	（１）環境教育を実施しているか	↓「実施している」の場合、（２）～（３）に回答ください	
		（２）概要（直営又は委託等）	（３）問題点等
犬　山　市	実施している	①ごみの減量やリサイクルについての知識を深めてもらうため、ごみ、資源物の分別方法や行政の取組について紹介しています。講座配布する資料はその都度作成しています。 予算は設けておりません。従事人数は市職員２名で平成３０年度は３回実施しました。 ②市民向けに各種環境に係る講座を実施しています。 土曜日、日曜日に年間約40回ほど講座を実施していますが、約半分が委託で、もう半分は、市職員による直営の講座となります。 　予算に関して委託事業は、講座のみではなく他の業務を含めております。	新たなニーズから、省エネ講座（市民向け、事業者向け）や緑のカーテン講座など、生活環境関係の新たな直営講座を増やしており、職員が出勤することで負担が増えています。
常　滑　市	実施している	１時間目 常滑市職員によるごみ処理・ごみ量などの現状説明及び４Rの説明【直営】 ２時間目 市民団体によるごみの分別体験学習【委託】	なし
江　南　市	実施している	①環境学習会（直営） NPO法人トンボと水辺環境研究所の方を講師に招き、木曽川・五条川・青木川に出向いたり、屋内で水槽作りや標本作りを通して自然や命の大切さを学ぶことができる学習会を行っています。また、中部電力の協力のもと年１回施設見学を行っています。 開催回数：年間１０回（平成３０年度実績、中部電力施設見学会含む。） 従事人数：各教室にて異なるが、２～３人 ※令和元年度は学習会を1回（海のいきものに関するもの）増やす予定。 ②江南市環境学習アドバイザー（直営） 平成２５年度より、江南市環境学習アドバイザー派遣事業実施要領を定め、派遣を行っています。 現在は環境学習アドバイザーは７４名、プログラムは２６個で運用しています。 平成３０年度は１３４件の講座を開催し2,939名の参加がありました。主な派遣場所は市内の保育園・小学校・図書館などです。 学習会や環境学習アドバイザーの講座等に3回参加し、シールを集めると、江南市マスコットキャラクター藤花ちゃんのオリジナル缶バッチをプレゼントしています。	①NPO法人トンボと水辺環境研究所の講師の方の人気に頼って開催している部分がある。また、一つの団体にお願いしているため内容が毎年同様になっている。今後、他の団体とも学習会の開催を考えていく必要がある。 ②江南市環境学習アドバイザーの高齢化が進んでいるため、養成講座を平成３０年度から始めたが応募者が２名であった。今後、どのように養成講座への参加者を増加できるか考える必要がある。

市名	回答		
	環境教育の実施について		
	（１）環境教育を実施しているか	↓「実施している」の場合、（２）～（３）に回答ください	
		（２）概要（直営又は委託等）	（３）問題点等
小　牧　市	実施している	【内容】 ①身近な水辺への親しみや理解を深め、水質浄化に対する意識の高揚を図ることを目的として、市内の5小学校の4年生の児童を対象として、水生生物調査を実施 ②環境への意識の向上を図るため、市民を対象に環境講座を開催 ③申込のあった町内会等団体に向け、資源・ごみに関する出前講座を実施 ④小学校４年生向け副読本の配布 【実施主体】 ①市環境対策課職員 ②外部講師（民間組織職員等） ③市ごみ政策課職員 ④各小学校教職員※副読本の使用は強制していません 【開催回数と職員の従事人数】 ①開催回数：5回（別日に各学校で事前勉強会も実施） 　職員の従事人数：4～6人 ②H30年度までは年4～5回セットの講座を開催していたが、受講生の固定化等の課題があったため、今年度は親子向けの講座を単発で開催 　開催回数：2回 　職員の従事人数：1～3人 ③開催回数：年間１５回程度 　職員の従事人数：2人 ④各小学校によって異なるため不明 【予算額（講師代、報酬等）】 ①【H31予算】 講師謝礼　100,000 円（10,000×5日×2人） 消耗品費（教材）　170,000 円程度 （網等）　30,000 円程度 ②講師謝礼　100,000円（市外大学教授20,000円×5人） ③講師は市職員で行うため予算は特段確保していません ④【H30実績】403,920円（税込）（副読本1,700部）	①採取した生物の同定に必要な知識を有する人材（市職員もしくは外部講師）の確保が難しい ②効果的な周知方法（現在は市ホームページ、広報及び市内施設へチラシを設置） ③市民からの申込に基づいて行うため、出前講座が本当に必要な不適正排出者への啓発ができない場合が多い ④各学校での活用について把握していないため、どの程度対象生徒にごみの知識が伝わっているかがわからない
稲　沢　市	実施している	ＮＰＯ法人祖父江のホタルを守る会へ委託している。 小学生とその保護者に対し、サリオパーク祖父江や無農薬で実施している実験田にて、環境について考える機会を年７回以上開催することとしている。 ＮＰＯ法人の会員が各回４名程度従事している。	委託事業であるため、市がどの程度まで関与するのか。
新　城　市	実施している	直営 環境講座等：外部講師招聘 水生生物調査、施設見学等：　職員が対応	問題なし

市名	回答		
	環境教育の実施について		
	（１）環境教育を実施しているか	↓「実施している」の場合、（２）～（３）に回答ください	
		（２）概要（直営又は委託等）	（３）問題点等
東　海　市	実施している	東海市エコスクール 「楽しく」「体験・体感」「発見・気付き」を大切に、進んで環境問題に取り組む人づくりを目指して、様々な講座を開催しています エコスクール実行委員会にて運営（環境基本計画推進委員会内にて組織。補助金を交付(H31予算573千円)。事務局：生活環境課） 平成３１年度　２４講座開催（事務局主催６、他課等主催１５、他団体主催３）	講座ごとの募集定員も限られるため、参加者の固定化が起き、新しい参加者が参加できないことがあること。 夏休みや土日の講座が多くなることから職員の負担が増えること。 未来の環境リーダーを養成する大人向け講座の開催が難しくできていないこと。
大　府　市	実施している	市内小学校4年生の社会科の授業で、ごみの処理について学習するのに合わせて、「ごみの処理」や「資源の分別」、「ごみの減量」について、環境課の職員が環境学習出前講座を行っている。市内各小学校１回ずつ計９回（職員の従事は各回２名、他に地域の環境美化に携わっていただく環境美化推進員２名程度が参加）	ごみや資源の分別を正しく理解し、ごみ減量の大切さを知ってもらうことは重要だと考えているが、小学校の授業のカリキュラムの変更等の影響で、環境学習出前講座にとる時間の確保が年々厳しくなっており、今後実施できなくなる可能性がある。
知　多　市	実施している	・臨海部事業所が整備した緑地で自然観察を行い、自然環境保全の大切さについて学ぶ。（直営） ・小学生親子が事業所や市の施設で環境への取組みについて学ぶ。（直営） ・ごみ処理施設の見学受け入れ実施（直営） ・ごみ減量と資源化の推進に関する出前講座実施（直営） ・広報やＨＰ等による環境学習情報の提供（直営）	人員が不足している
知　立　市	実施していない		
尾 張 旭 市	実施している	市の直営での講座もあるが、大学や企業への委託や無料での協力により、講座やイベントを実施している。（直営１、委託１、外部協力４）	大学や企業等との外部協力による講座は、相手側の都合により継続開催できなくなる場合も想定される。
高　浜　市	実施している	内容：ごみに関連した内容 実施主体：高浜市 開催回数と職員の従事人数：２回実施　職員１名 予算額（講師代、報酬等）：０	なし
岩　倉　市	実施している	環境教育に関する主な講座等 ・小学校における、ごみについての出前講座。講師は環境保全課職員 ・小学校における、川の水生生物調査。講師は市民団体 ・「自然生態園」におけるイベント、自然観察会など。講師は園の説明員（臨時職員）	事業継続の可否。講師である市民団体や園説明員の新しい人材が不足しているため

市名	回答		
	環境教育の実施について		
	（１）環境教育を実施しているか	↓「実施している」の場合、（２）～（３）に回答ください	
		（２）概要（直営又は委託等）	（３）問題点等
豊　明　市	実施している	希望があった団体に対して、次の内容で環境課職員が実施している。 ※小学校においては直営の清掃手も参加 （実績としては、市立小学校（４年生）、保育園、高校、町内会等の団体など） ・ごみの種類、分別方法及び３Ｒについての説明。 ・食品ロスについて、削減方法を含めた説明。 ・食品ロス削減啓発紙芝居の実演。（小学校、保育園において実施） ・パッカー車の説明、パッカー車へのごみ入れ体験（小学校において実施）	ごみ減量化に向けた啓発事業として欠かせないが、職員の負担は少なくない。
日　進　市	実施している	当市では、夏休みに毎年企業の協力のもと直営で環境講座（５講座程度）を実施している。また、主にはコミュニティ公募提案型事業としてESD普及啓発事業を委託している。審査会を実施し、予定総数４０講座内で採用の有無を審査している。平成３０年度は１０団体と契約し、子どもから大人までを対象としたESD講座を実施した。	平成２２年度から実施している事業になるが、近年新規団体からの応募がなく、事業に目新しさはない。継続事業の重要であるが、新規事業の開拓に苦慮している。また、委託先市民団体の高齢化が進んでおり、同数程度の講座が続けられるか等の課題がある。
田　原　市	実施している	市の職員が講師となり、小学３～６年生を対象に「夏休み生きもの調査」を行っている。実際に川に入り、川の中の魚や昆虫を採取し川のきれいさを判定する。	定員を１０名で募集しているが、参加者が少なく、近年は２～３名程度の申込しかない。 講師となる職員は、川に生息する生物の名前等の知識が必要となる。
愛　西　市	実施していない		
清　須　市	実施している	市職員が講師として市内小学校４年生を対象に環境学習出前講座として環境問題の講話、ごみ分別体験、環境クイズ、ごみ収集車の見学を実施しています。	特になし
北名古屋市	実施している	エコクッキング（ごみ減量及びからだの健康を考える：直営） ストップ温暖化教室（地球温暖化防止を目指す：委託） 水生生物調査（生き物を知り水の汚れを判定する：委託）	特になし
弥　富　市	実施している	直営	特になし
みよし市	実施している	みよし市では、環境教育として、東邦ガスと連携してエコクッキング教室（年１回、夏休み）を開催しており、環境課が直営で自然観察会（年３回、春、夏、冬）、水生生物調査（年３回、夏休みに３日連続で開催）を開催しております。	問題点として、エコクッキング教室は人気が高く、抽選となっているが、回数を増やすことが難しく、自然観察会は開催時期により、参加者数の数に極端な差が出てしまい、水生生物調査は、夏に開催するため、昨年度は気温が高く開催できなかったことが挙げられます。

市名	回答		
	環境教育の実施について		
	（１）環境教育を実施しているか	↓「実施している」の場合、（２）～（３）に回答ください	
		（２）概要（直営又は委託等）	（３）問題点等
あ　ま　市	実施している	当課職員により市内の小学校4年生を対象に、希望する小学校で「出前講座」としてごみの出し方や分別のルールを中心に実施している。（小３～４年生で本市を学ぶ社会科副読本による授業で市のごみの頁がある為）	市ウェブサイトで他課（企画政策課）が、町内会や各種団体向けに「出前講座」の募集をしているが、環境関係の講座依頼がない。
長 久 手 市	実施している	①小学4年生対象「外来種勉強会」。直営（講師委託）。年1回。職員4人従事。 ②小学生対象「グリーンマップ作り」（直営。企画・運営委託。）年1回。職員3人従事。 ③環境に関するセミナー。直営。年1～2回。	参加者が少ない。